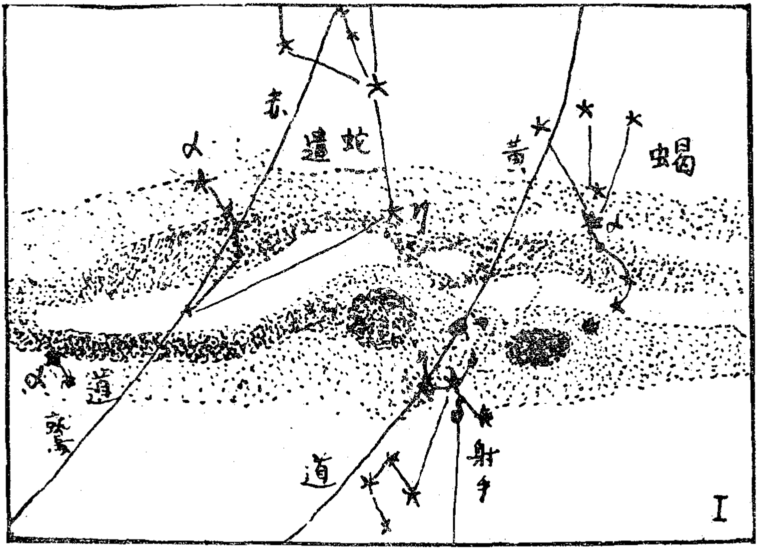


銀河

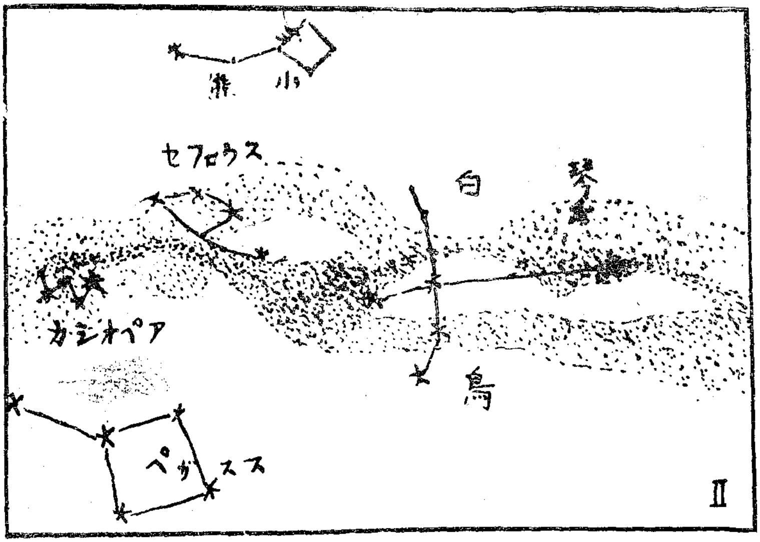
星見小路虚

一、天漢讃歌

夏の夜と夜はなりにけり南に
流れいちじろき天の川かも　（川崎杜外）

詩人は見たまゝの直觀を歌ふ。そこには何等の科學的分析眼をもたないかわりに、僞りのない眞摯な態度そのものがある。たゞ觀ただけの客觀に親しき眞理の把捉がある。地球の公轉運動に原因を發見する必要がどこにあらう。

夏の夜となれば南天から北上する銀河の美觀をたれが讃美せずにおこうぞ。天空の美觀中その最も雄なるものは銀河であらう。それが夏ともなれば、親しくも吾々のものとなるのだ。炎暑の苦を誰れしも靜かな夜の訪れと共に戸外に洗い落さんと希ふ。夏に入れば銀河は夕闇と共に早くもその雄麗な姿を人の眼を惹きやすく現して來る。そして八月に入つて日沒と共に南空から眞一文字に頭上を此空に横ぎる時。銀河はその流れ愈々いちじろく、水嵩の増してか、渡るに橋流れてか、空しくも相愛し而も相擁するを得ざる、戀星二人、兩岸



にたたずみて、あはれ涙にまたたく。七月七夜の七夕の夕べ織女と牽牛の物語に、人の世の若き乙女等は可憐の願の神酒捧げつゝ夜を惜む頃である。

端居して夜を惜みをれば天の川
木梢移りていやさやかなり　（宇都野研）

天の河棕梠と棕梠との間より
幽かに白し闌けにけらしも　（北原白秋）

げに天漢の美は白樺の北國でも又棕梠多き南國でもかわりはない。だが銀河の美は空氣が次第に澄んで來る秋にかけてがよい。

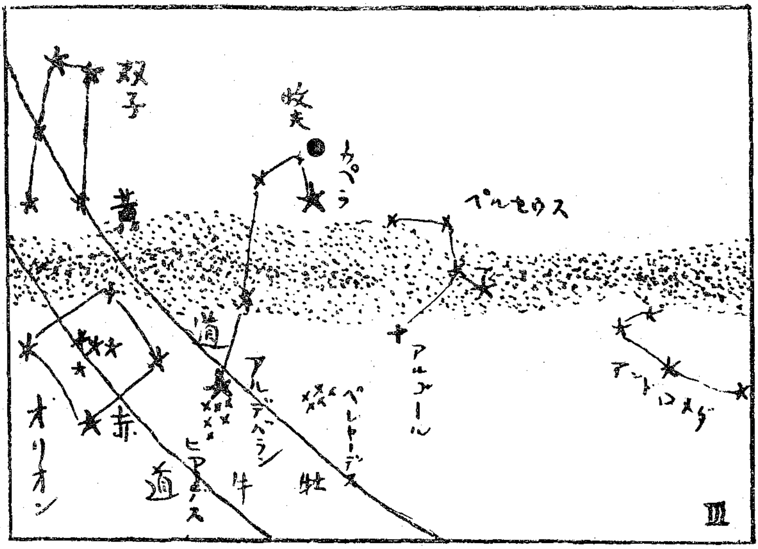
この夜の人は皆見て天の河
清しと言へば吾れも仰ぎつ　（長田畏太郎）

清く靜かに晴れた秋の夜の銀河は誰でも仰ぎみる。然しその頃から天の河は次第に傾いて來る。

いとゞしく夜風にさわぐ桑畑に
天の川晴れて傾きにけり　（島木赤彦）

きびの葉のそよぎすゞしき畑道
空にはかゝる天の川かも　（米倉久子）

冷え冷えした秋の空氣に人々のからだが緊きしまる時秋の天空の樣に人々の頭も澄まう。そして單にその美觀を讃美し



た人々には、認識の慾求が靜かに目醒めて來よう。そして晩秋から冬にかけてそろそろ木枯しの吹く頃ともなれば、更けた夜空の天漢は寒星と共に宇宙の幽玄を敎える哲理的な氣分をさえも人々に抱かせる樣に思はれる。

荒海や佐渡によこたふ天の河

それには單にひきしまつた、北海の荒冷たる情景をのべたのみにとどまらず、玄妙なそして銳利な學理的意味をもふくませたい。

二、天漢溯流

私は緊張した十月の讀者諸子と共に、銀河の流れに沿ふて溯りたいと思ふ。

蒼空の眞洞にかゝる天漢（あまのかは）
あらはに落ちて海に入る見ゆ　（伊藤左千夫）

遙かな南の海に天漢は注ぐを見る。そこは大河の最下流であらう。二筋に分れた流れはゆるやかによどむ。それは炎熱の熱帶の川にも譬えやう。わには居ない。だが、恐ろしい巨大な蝎は河中の砂洲に其の尾を休めつゝ西方を睨む。尾尖の少し東北に恐しく深い淵がある。その形は隋圓形で恐らくは天河中の最深の箇所の一つと言へやう。果しなき深淵の底に

何物が棲むかそれは永遠に神秘な謎かも知れない。

此の深淵に臨んで射手は滿月の弓を張る。何物をか射んとする。蝎をか。だが眼を轉んじて西岸を見れば、そこには長大な蛇がうねる。蛇を射んとか。止めよ。勇ましき射手。

その蛇は馴らされた蛇なのだ。そうして我には體軀秀でた蛇遣ひが今し銀河の波を蹶つて蛇をあやつるを見る。このあたりは銀河の流れが渦卷く所だ、蛇遣座イータ星の東には圓形の淵がある。そして北から深い二流となつて流れ來る銀河はこの所によどむ。

蛇遣座アルファ星の畔は銀河坐標軸で經度零度の所だ。だが我々は今、數量的の事に齷足して居る時でない。

水夫よ。帆を揚げ。行手は遙かだ。銀河左岸高く鷲飛ぶ所、銀河兩支流は正に相近く。眼を放つて右岸を望めば、織女は坐して、琴を奏す。天來の美音は正にこのことであらう。卽醉ひて舟板を叩いて、白鳥の歌を誦して之に和すれば、白鳥一聲啼いて泛ぶ。白鳥座アルファ星の附近、銀河の兩流の合する所。大河の流ゆるやかに、名所セフェウスの港は正に銀河の右岸。舟人は誰れしも、帆を捲きて休み、そして知らぬ間に北極に近けるを始めて識るのだ。北辰は近い。小熊も近い。だが我々は長く止まるにはあまりに寒い。今我々はセフェウス港とその島とを見すて左岸より遠くペガススの正方形の城廓を望みつゝ帆を揚げよう。

最う來し方はおほ方見えなくなつた。そして吾々は北極の東を廻りつゝある。河中の名所カシオピアの脊後には偉大なるアンドロメダの星座を望む。

黃落の晩秋愈々老いて時正に冬に入るの頃である北極の畔は吾人の住むに餘りに寒い。戀しきは麗しき赤道のもとである。龍骨を轉じて來し方に流れを再び下るべきか。否々。蒼穹愈々澄んで寒星の燁然たる冬の天球に今し銀河の上流は大圓を描きつゝ北辰の西を廻流して一水遠く白銀の如く南空に走るは此れ冬の天空である。

吾等が船は今しペルセウスに入る。眼を轉んじて左岸を見んか。そこには舟人の恐れおののく妖怪が棲む。然し誰れでも、その美しい妖怪は見ずには居

られないだらう。そしてそれは讀者のすでに熟知せるアルゴール星なのだ。

昔、地中海の航海者は水精サイレンの爲めに破滅した。又ライン河の舟人はローレライに其の墓場を見だした。吾々は美しい妖精の爲めに船路をあやまつてはならない。そうだ。吾々の前途、そこには天球上、最も美しい。桃李源があるのだ。而も仙境は今正に近い。

見よ。ペレヤーデスとヒヤーデスとは花の如く、牡牛のアルデバランは銀河をへだてゝ牧夫のカペラと共に樂園に弧光を照らす。

オリオンの諸星と大星雲は對岸の雙子と天球第一の美景を作り、而も南空銀河の落ちる所大犬の天狼と小犬のプロキオンとは宇宙の眼の如く輝く。

最上美だ。それだけでよい。人類の言語にこの美を言ひあらはす形容詞があらうか。

*　*　*

*　*　*

吾々は銀河を南スゴルピンから溯つて再び南空天狼の畔に來た。その間幾億萬里を航つたかを知らない。又その流れの所々、幾萬里の深さなるかを測らなかつた。又銀河の水質についても何等科學的の研究をなさなかつたのだ。然しこれは宇宙物理學の一大問題であつて、實に宇宙構造論に入る鍵なのだ。だが其の事は今こゝに書くことをやめよう。如何となれば、他日銀河系宇宙に就ては專門家が筆を執るだらうから。（大正十一九月十六日）